



2013年7月7日(第155号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

カトリック高松教区報

マザー・テレサの真実
パンの形の中に
キリストを見るように
努めながら
私たちは一日を始め
ます。
日中は、貧しい人々の
疲れた体の中におら
れるキリストに出会う
ために出かけます。

テーマ「キリストとの出会い」

高松教区の2013年度目標は、先の司教教書にもあるように「信仰共同体の養成に取り組み」ことである。高松教区の歩みを振り返り、「信仰養成」に「今、わたしたちはどこにいるのか?」を確認し、更なる宣教共同体への成長を目指している。

信仰共同体養成プログラム決まる

イメージや、信仰と生活の遊離の現実を反省し、社会に開かれた教会と私、みことばと私、という信仰のありようや、共に生きる共同体となるための動きが始まった。これは溝部司教が「高松教区の問題は何であったのか?」(カトリック新聞・2011年4月13日号)に書かれたように「それは第2バチカン公会議の線に沿って日本の教会の方向性を定めた福音宣教推進全国会議(NICE)の路線に高松教区が余りにも無関心、または無知だったことに起因する」との指摘に込められた動きである。2012年10月から信仰年に入り、この1年間、信仰の目と神とのかかわり、神の恵みと助けによって信仰のありようを確認するための「教区民の集い」では信徒各自の「ダイナミックメモリー」を分かち合った。今年2013年は「信仰共同体」を柱に置き、互いの信仰の上に立ち、みことばを分かち合うことから始めようとしている。今後は、3月の(拡大)宣教司牧評議会を確認したように、メインテーマを「キリストとの出会い」とし、左記の手順で具体的行動に移すこととしている。

信仰年に寄せて

宇和島教会担当司祭 田中正史

信仰をどのように捉えるのかという問題は、神の恵みと助けによって信仰のありようを確認するための「教区民の集い」では信徒各自の「ダイナミックメモリー」を分かち合った。今年2013年は「信仰共同体」を柱に置き、互いの信仰の上に立ち、みことばを分かち合うことから始めようとしている。

Crede in Deum(神を信じる)がありま... 神への信仰は、私たちが人生の中で生きていくための力となる。私たちが人生の歩みを進める中で、神の恵みと助けによって信仰のありようを確認するための「教区民の集い」では信徒各自の「ダイナミックメモリー」を分かち合った。今年2013年は「信仰共同体」を柱に置き、互いの信仰の上に立ち、みことばを分かち合うことから始めようとしている。

信仰は人間の心とそれと神との

聖トマス・アクィナスによる「信じる」について

信仰は人間の心とそれと神との... 聖トマス・アクィナスによる「信じる」について... 信仰は人間の心とそれと神との... 聖トマス・アクィナスによる「信じる」について... 信仰は人間の心とそれと神との... 聖トマス・アクィナスによる「信じる」について...



11月4日 教区設立50周年記念の集い

高松教区設立50周年記念感謝と希望の集い
テーマ 感謝と希望
キャッチフレーズ「ともに歩こう 希望のうちに」
2013年11月4日(月)振替休日
場所 カテドラル 桜町教会 四国会館
時間 午後1時~4時
バチカン教皇大使、お世話になった司教様、司祭、修道者の皆さまをお招きし、希望のうちに感謝と賛美を捧げる集いです。どうぞご参加ください。
内容 第1部 感謝の部 (愛媛地区)
希望の部 (香川地区)
賛美の部 (高知地区)
第2部 派遣のミサ (徳島地区)
フリースペース 四国会館2F (交流・展示・青年バンドステージ)
参加 自由
公募
「テーマ」「キャッチフレーズ」にちなんだロゴマークを広く公募致します。子どもからシルバーエイジまで、皆様からの応募をお待ちしております。
応募先: 高松司教区事務局 50周年デスク
760-0074高松市桜町1-8-9
Tel:087-831-6659 Fax:087-833-1484
E-mail: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp

高松教区は本年9月に教区設立50周年を迎える。これを記念する取り組みとして司祭評議会と司教区協議会において記念行事開催を決定し、高松教区各地区から司祭・修道者・信徒(大人と青年各一名)を構成メンバーとする準備委員会を立ち上げた。これを含め4事項を決定し実行する。

からし種は「人がこれを取って庭に蒔くと成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る」(ルカ13:18・19)ように、種の中には最も微小であるがその中には成長の確かな動きが隠されている。種はただその動きに与るだけでひとりである。種はただその動きに与るだけでひとりである。種はただその動きに与るだけでひとりである。

はばたき
夏が来た。今年6月ごろまで、急に冷たい日があったりして天候不順が続いた。やっと夏の風物詩のトンボたちが川辺を飛び交うのが見られホッとしている。8月にはお盆を迎える。原爆忌、終戦記念日。日本の夏は平和を願い、鎮魂を祈る季節でもある。

第2バチカン公会議って何ですか(下)

カトリック教会にとって大きな転換点となった第2バチカン公会議。その開催50周年を記念する「信仰年」にちなんで公会議を振り返るこの連載。前回までに、公会議の第一期期で、二つの勢力の対立が明らかになり、教皇の介入もあって、主導権が教皇庁の保守派から世界中から集まった司教たちに移ったこと、典礼が自国語に刷新されたことなどを見ました。今回はその対立のひたひたの軸となった教会についての教えを、後に公会議で採択された文書『世の光』(教会憲章)に基づいて、見てみましょう。



カトリックの聖職者は、秘跡を執り行う権利と権威をキリストから授けられた。それは「授け手」(頭に手を置く儀式)の継承によってキリストの弟子たちから途切れることなく今の世代まで伝えられてきている。継承の途切れているプロテスタントの聖職

大きく変わった教会観

教会は組織？

公会議以前の時代、神学は教会をいわば「組織」のイメージで語るのが主流でした。この「組織」がどのように始まって、誰が指導している、という役割が、また誰がどういう権利と義務を持っている、という決まりが、どうあるべきか、という神が作る「具合」です。神が作った組織なので絶対であり、その指導者の権威も絶対的である、というニュアンスも伴っていました。神から力と権威を授けられた、さまざまな位の聖職者と、それに導かれる一般信徒との身分の違いも強調され、その関係は上下的なものとして規定されました。

法的な教会理解

その背景には一六世紀以来のプロテスタントとの対立もあり、どちらが本物の教会なのか、といった時に、我々

「からだ」をなしているとか、神によって集められたひとつの「民」であるというような、聖書的・有機的・神秘的なものでした。

それは神から与えられた「権力」や「役職」を通して、教会を階級社会的に理解するのではなく、聖霊によってすべてのものが聖なるものへと変えられていくという遠大な視野のうちに、教会を救いの恵みがあふれ出る泉(キリスト)、しるしとしてとらえる理解、そしてお互いを洗礼によって同じ使徒と尊厳を与えられ、それぞれに違った賜物をいただきながらも、ともに支え合い、困難な現実

は無効だ、といった議論がなされました。つまり、教会のアイデンティティを聖職の有効・無効から考え、また聖職を権利・権威の継承という視点から見ると、極めて法的な教会理解です。このような貧しい教会理解に不満を持ち、もっと聖書や伝統から、深く豊かな理解を導こうとする努力は、公会議よりも何十年前前から、さまざまな神学や運動の中に現れ始めていました。したがって、公会議で従来の教会理解に基づいた文書「教会について」が提出された時、これを支持する保守派と、その教会理解に違和感を抱く多くの司教たちが衝突したのです。無理からぬことだったのです。

回復された伝統

権利、義務、権威、服従といった法的・機械的・職務的な観点から教会を描く「教会について」に対し、司教たちによって新しく執筆された『世の光』が示す教会は、私たち一人ひとりが集まって、ひとつの神秘的な

信仰の模範の“頑張り屋さん”

桜町教会 中川修栄 さん(60歳)



カトリック幼稚園の園長を務めている中川修栄先生は、美しい笑顔と、子どもたちの笑顔に、いつも自分の子どもたちのことを第一に心配し、子どもたちのために頑張り屋さんだと思われ、ひとことでは言い尽くせませんが、祈りをとて大切にされる方です。子どもたちにも、よく神様のお話をしたり、修道院の「マリ・ウージェニー」と共に歩む「ハイ、でも私は疑い深いので」とつむぐ私に、神父さまは聖書の中の疑い

らかです。片や整頓先で周りは大先輩であり、私たちが、そうありたいと思う人です。会議などの時には、先ず自分が最後に席に着くと、子どもたちに困らなげに、仕事を励んで下さい。マリア幼稚園 教職員

小教区紹介

三本松教会(香川)

今年もまた当小教区に多くの信徒が集まって、教区行事「ルルド祭」を盛大に祝い、うごん交流会で信徒相互の親睦を深めることが出来た。三本松教会は、高徳線三本松駅の北西、三本松小学校の北側に在り、献堂当初はほぼ海岸沿いに位置していましたが、現在は近辺に住宅が立ち並び、海岸の開発により港湾施設や企業や公園が整備され、周辺環境も変化しています。また周辺の変化とともに、小教区としての三本松教会も変化が見えてきています。その変化は第1に信者、

毎年盛大にルルド祭を祝う



今年もまた当小教区に多くの信徒が集まって、教区行事「ルルド祭」を盛大に祝い、うごん交流会で信徒相互の親睦を深めることが出来た。三本松教会は、高徳線三本松駅の北西、三本松小学校の北側に在り、献堂当初はほぼ海岸沿いに位置していましたが、現在は近辺に住宅が立ち並び、海岸の開発により港湾施設や企業や公園が整備され、周辺環境も変化しています。また周辺の変化とともに、小教区としての三本松教会も変化が見えてきています。その変化は第1に信者、



明るく笑顔が絶えないフィリピン

長らく見知られてきた方々、フィリピンから市内の手袋工場に研修に来られている女性の方々もミサに集まって来られるようになり、主日ミサは聖堂の座席がほぼ埋まるまでの賑わいを見せています。東かがわ市、さぬき市にお住まいの皆様、進んで集まっていただけるような教会にしたい。また東讃協力司牧での小教区共同体として活動を続け、キリストの教えを共に学び、カトリックの良さを多くの方々に知らせたいと思っています。三本松教会 長町公司

信仰年によせて

受洗の大きな喜びを伝えながら

教会の門をくぐったのは家からほんの一足のごころカトリック桜ノ宮教会でした。そのころの私は20代後半、重度障害という自分の置かれた立場に納得できず、のたうちまわっていたときのこと。半年かけての公教要理の勉強を終え、長崎出身の山口正神父さまの「洗礼を望まれますか？」との質問に「ハイ、でも私は疑い深いので」とつむぐ私に、神父さまは聖書の中の疑い



深い弟子の個所を聞かせてくださったのでした。受洗の喜びは大きく、

神学生便り

聖体訪問を大事に自己養成

神学課3年宋神学生



スポーツのいのちの神学生たち

まず、3月20日に司教様を始め神父様たち、そして信者さんのお祈りのおかげで祭壇奉仕者として選任される恵みを頂きました。心から感謝いたします。今年の日本カトリック神学院福岡キャンパスでは、3人の神学生が助祭叙階され東京に移動し、東京からは司祭・助祭候補者として認定された高松教区神学生3名を含め10人の神学生が福岡に移動して、現在各教区から23人の神学生たちが福岡で一緒に生活しています。福岡キャンパスでは毎週土・日曜日には福岡教区の小教区に司牧体験として派遣されています。私は大宰府市にある二日市教会に派遣されて平日三好神父に派遣されて平田三好神父様のもとで祭壇奉仕者としてミサの奉仕をし、教会学校で堅信組の子どもたちに要理を教えています。

を押しとおして、四万十川支流の市街地にも近い今の場所に移り住むことになりました。そのころの中村教会は、くくり戸を入ると小さい中庭と、4畳半2間の畳敷きのお部屋があり、2メートルに近い長身のオブレト会士ビル・マール神父さまが常駐されていました。そしてミサ、聖書の講義、英会話と幾多の布教に邁進されていました。今75歳の私は中村では古参的存在になってしまいましたが、両親亡きあと20年余りを周りの皆様に助けられながらの一人暮らしですが、この奇跡を思う

追記
力丸久子さんは一人で寝起きもできないという方で、でも、こくわずかに動く右指でパソコンを打ち、電動イスで動きながら、おひとり暮らししておられます。彼女の忍耐力は私達の想像を絶しています。教会に通えなくても、聖体奉仕者から「聖体を拝領し、多くの友人も彼女に会う度に彼女から元気をもらって帰っています。」

西日本司祭交流会

おしとやかシスターもバット振り



愛媛県松山市の重信川河川敷にある球場にひととき大きな歓声が響いた。前年までとは違いソフトボールでは番外試合がセットされ司祭・修道女チームと60代シニア・女性チームが出場しその場の雰囲気盛り上げた。今年最強・長崎教区の不参加により、急遽、即席チームの立ち上げとなったからだ。聖トミニコ宣教師道女会のシスターを含む地元応援団のカラフルな手作りポンポンでの華麗な応援も飛び出し、その場をひととき盛り上げた。第10回目の今回は広島・

初聖体

坂出教会 河上知哉

僕は6月2日に初聖体を受けました。シスターから神様のことや、愛について、許しあうことについて勉強しました。勉強した後は、なんだか心がきれいになったように思いました。初めての初聖体は神父様と半分ずつで大きくてびっくりしました。「神様、来てくれてありがとうございます。」これからもっともっときれいな心でいられるように頑張ります。



高松空襲の跡を訪ねて考える 『今平和を感じられますか』

高松教区人権を考える委員会 委員 尾崎寿一



語り部 喜田清氏に聞き入る

高松教区人権を考える委員会は、日本カトリック正義と平和協議会(正平協)との共催で、平和の実現のために何ができるか、とい

う事を考える第一歩として、5月25日(土)高松空襲の跡を訪ねて過去の戦争の悲惨さ、酷さから平和の大切さを学ぶスタディツアーを開催した。

高松教区の各県から諏訪司教様を始め27名、正平協から1名、兵庫県からシスターを含めて2名、合計30名の参加があった。

先ず番町教会で、語り部の喜田さんと岡田さんが持つて来られた焼夷弾(しょうやだん)や防空頭巾、防火バケツなどの実物を見せられ、それを使いながら空襲当時の状況の説明がなされた。

続いて、残されていた高松空襲の手記が小学校6年生の川西まゆか、ふうかさん姉妹によって朗読された。その手記には、家族が死に負傷し、離れ離れになった上に家も焼かれて何も残っていない悲惨な状況が再現

語り部たちは自分たちの後を継いで、語り続けてくれる人を切に求められている。

5月20日、高松桜町司教座聖堂で高松教区初代教区長・フランシスコ・ザビエル田中英吉司教の命日30周年追悼ミサ、つづいて高松市郊外の「郷屋敷」で偲ぶ会が行われた。

故田中英吉司教を偲ぶ会

桜町教会 細谷正高



故田中英吉司教を知る信徒たち

50周年の意義深い記念の年、田中英吉司教の命日30周年追悼ミサを捧げていただきたくは本場に幸せなことであり、私も参列させていただき心から感謝している、と述べ話を終えられた。

田中英吉司教が語る 英吉司教の足跡

故田中英吉司教は、明治35年(1902年)6月6日、愛媛県宇和島市戸島生まれ、大正12年(1923年)、故人の実兄である哲太郎氏の影響を受けて受洗した。旧制高知高校理科をとおして長崎医科大学に進み、在学中、召命を感じ、東京カトリック大神学校に入学。

私財で建立

何時のことか分らないが、父田中哲太郎は弟田中英吉神父と財産分けを行った。



新本町教会と叫び出し当時

新本町(江ノ口)教会 父田中哲太郎は弟田中英吉神父と財産分けを行った。国鉄高知駅の裏に広い土地を購入し、その半分に新本町教会、俗に言う江ノ口教会と司教館を建て、残りの半分に聖心愛子会(聖心の姉妹会)のシスターを呼んで児童施設、保育園、ベビーホームを開いた。

昭和28年(1953年)には、スペインのブルゴス外国宣教会の司教が若干名、香川県の西部に赴任し、つづいて昭和43年(1968年)には、アメリカのオブレイト会司教が若干名赴任し、高知県と徳島県を担当した。こうした応援と協力のおかげで、その後、四国全土を受け持っていたドミニコ会の司教たちの教

詩 心を思うと

イエズス様の御心を思うと 許さなくてはならないと思う 良いことをした者のために 浮かべ見つめていて下さる イエズス様の笑顔が見たいから

イエズス様の御心を思うと 許さなくてはならないと思う 良いことをした者のために 浮かべ見つめていて下さる イエズス様の笑顔が見たいから

司祭、親族の方々や信徒の有志が参加して、会食と偲ぶ会が行われた。瀬戸内の新鮮な魚と本場のうどん料理を頂きながら、三波を羨ましいといった。

医療のともしび (38)

日本カトリック医師会について

本欄で執筆しているのは、主に日本カトリック医師会高松支部のメンバーです。今回はこの医師会について書きます。

JCMA (The Japan Catholic Medical Association) と略します。この会に参加しているのは医師または歯科医師で、カトリック信者であり、会則に賛同した方が参加しています。年間の事業としては世界的には各国のカトリック医師会との連絡や行事への参加があり、近年アジアカトリック医師会開催を日本カトリック医師会において行うことが決定され準備中です。国内においては学生向けのセミナー開催(カトリック医療関連学生セミナー)、医師会誌発行、看護や介護施設との共働するための会議(カトリック医療団体協議会)参加、カリタスジャパンへの寄付などを行っています。ボランティア活動としてはフィリピンにおける医療奉仕活動を年1回行い、東チモールやベトナムへの視察も行っています。

インターネットでは以下のアドレスにホームページがありますので、ご覧いただくと幸いです。

(http://www.j-cma.com/index.html)

全国に20の支部があります。そこでは支部独自の活動があります。高齢司祭の健康問題への取り組みや、外国人居住者の検診に取り組んでいるところもあります。高松支部ではこの医療のともしびを執筆することが主な取り組みであり、医療の抱えるよい点、問題点などを発信し、高松支部の信者に役立つようにしています。

JCMAにも改善するべき点があります。一つに上記活動の資金源は、会員の納める年会費しかありません。その会員数が減少してきています。1990年前半には800台後半の会員数が現在は600を割る状態になっています。会員の高齢化が進み、若い会員の相対的減少が見られます。(現在60歳以上の会員の占める割合は全体の61%です。)会の存続 発展のために、新しい会員を全年齢層にわたって増やしていくことが重要です。この記事を読んで、私も参加したいと思われたり、家族に対象者がいて、声掛けしてみてもいいと思われるかたはぜひお力をお貸しただけですようお願い致します。

疑問点を含めた連絡先は以下にお願いできたら幸いです。皆様のご協力をぜひお願い致します。

〒762-0033 香川県坂出市谷町1丁目4番13号 坂出聖マルチン病院 医局 または メールアドレス martin@mail.kbn.ne.jp 坂出聖マルチン病院 整形外科 田賀谷健一

教区スケジュール

- 7月
1日(月) 福者ベトロ岐部と187福者殉教者(記)
3日(水) 聖トマ使徒(祝)
7日(日) 年間第14主日 結城雪祭in阿南
14日(日) 年間第15主日 高山右近祭in小豆島
15日(月) 聖ボナヴェントゥーラ司教教会博士(記)海の日
20日(土) 宣教司牧評議会役員会13:00
21日(日) 年間第16主日
25日(木) 聖ヤコブ使徒(祝)
26日(金) 聖ヨアキムと聖アンナ(記)
28日(日) 年間第17主日
29日(月) 聖マルタ(記)
31日(水) 聖イグナチオ(ロヨラ)司祭(記)
8月
4日(日) 年間第18主日
6日(火) 主の変容(祝) 広島平和記念日
8日(木) 聖ドミニコ司祭(記)
11日(日) 年間第19主日
14日(水) 聖マキシミアノ・マリア・コルベ司祭殉教者(記)
15日(木) 聖母被昇天祭
18日(日) 年間第20主日
21日(水) 聖ピオ10世教皇(記)
22日(木) 天の元后聖マリア(記)
24日(土) 聖バルトロマイ使徒(祝)
25日(日) 年間第21主日
27日(火) 聖モニカ(記) 佐々木光雄師命日
28日(水) 聖アウグスチヌス司教教会博士(記)
29日(木) 洗礼者ヨハネの殉教(記)

新刊書籍紹介

十字を切る



き車に乗るとき 仕事するとき 試合や試験、本番のとき 感動のとき 気持ち切り替えるとき 病気のとき 苦しいとき 死にたいとき 生涯の最後るとき 「父と」・親の愛によって子を生む天の父「子と」・親の愛によって生まれた神の子「聖霊の」・親子を結び親心「名によって」・父と子と聖霊の交わりに入る「アーメン」・まことの親への全面的な同意 十字架架と復活 今日ここを天国に 定価:1,365円(税込) 著者:晴佐久昌英 四六判並製 218ページ 発行:サンパウロ

告知板
黙想会のお知らせ
テーマ:「耳を傾けて」
期日:13年7月13日(土)~15日(月)
場所:長崎 立山黙想の家
対象:高校生~40代までの若い男女
申込先:TEL(095)821-4577 FAX(095)821-4585
メール:ret-nagasaki@dream.ocn.ne.jp
主催:イエズス会・マリア会・パウロ会 お告げのマリア会・カノッサ会 コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会

本紙への広告掲載を募集しています。
皆様のご協力を宜しくお願い致します!
教区広報委員会

慌てて雨も降らず、空を見上げては雨粒に恋焦がれ、梅雨の雨に恵まれた。信者一人ひとりが、この梅雨の雨に恵まれた。信者一人ひとりが、この梅雨の雨に恵まれた。信者一人ひとりが、この梅雨の雨に恵まれた。

神を観想し、その実りを人々に伝えよ
聖ドミニコ宣教修道女会

子どもたちの心を揺るがす。
幼稚園2階ホールでのオリエンテーション、参加者全員での交流ゲームの後、諏訪司教様からお話があり、司教様ご自身が滋賀県の琵琶湖畔に子ども達をキャンプに連れて行った経験を基に、神様の存在についての話をしてくださいました。その後六つの班に分かれてのグループワークとして、主に紙で舞台や人形を作り演じるペープサート



子どもたちの心を揺るがす。ジェイコブ

ベ神父様「ありの街のマリア」「ドン・ボスコ」「マザー・テレサ」「永井隆博士」「ド口神父様」です。それぞれの班で配役、台本の作成、演目の内容の打ち合わせなどを行いました。その後夕食となり、鳴門教会の女性信徒の皆様のご協力で、みんなでカレーライスを食べました。夕食後はまず、林神父様が、学校内でのいじめを題材にしてのお話をしてくださりました。それぞれの登場人物の子の意見を挙げて、どういふものがいいか、またそれにどうしたらいいのか、またそれを防ぐにはどうしたらいいのか、をみんなで考えました。そしていよいよ、人形や小道具、台本の製作に取りかかりました。その後、聖堂でのテングの形式を用いた夜の祈りを捧げました。そしてみんなで協力してそれぞれの部屋へ布団を運び小学生はそのまま就寝し、中学生は語り合いの後、二日目は日曜日でした。起床後、聖堂での朝の祈り、布団の片付け、朝食を済ませ、それぞれ昼からのペープサート上演にむけて人形、小道具、脚本を仕上げました。その後鳴門市内の体育館へ移動してスポーツレクリエーションで汗を流し、教会に戻った後、発表の稽古に入りました。

6月16日午前、諏訪榮治郎司教の司教叙階を記念し、今回4回目となる「聖歌合戦」、午後には司教叙階記念ミサが執り行われた。聖歌合戦にはこれまでの常連チームの不参加もあったが、当日9時に即席結成された9時の会チームのエントリーもあり、会場を盛り上げた。昨年参加できなかった道後のアンサンブル・ユビラーテは今年も澄んだ歌声で教会音楽を披露した。

午後2時から司教叙階式による共同司式英語ミサが捧げられ、これまでの諏訪司教による教区司牧への感謝とこれからの司教と教区民の上の神の祝福を願った。



諏訪司教 司教叙階2周年記念ミサ

若い力

鳴門教会・鳴門聖母幼稚園
信じてよかった生まれて良かった
第25回「子ども&中高生の集い」

4月13日から14日にかけて、毎春恒例の教区主催、子ども&中高生の集いの第25回が「信じてよかった!生まれてよかった!」をテーマに、徳島地区の鳴門教会と鳴門聖母幼稚園で開催されました。当日早朝に、淡路島を震源とする地震が発生しましたが、会場では特に問題も無く無事開催されました。受付を終了し、幼稚園2階ホールでのオリエンテーション、参加者全員での交流ゲームの後、諏訪司教様からお話があり、司教様ご自身が滋賀県の琵琶湖畔に子ども達をキャンプに連れて行った経験を基に、神様の存在についての話をしてくださいました。その後六つの班に分かれてのグループワークとして、主に紙で舞台や人形を作り演じるペープサート



歌に躍動感を吹き込むSCCFC (Sakuramachi Catholic Church Filipino Community)

一堂に会し聖歌で賛美
諏訪榮治郎司教叙階2周年を祝う
審査の結果、フィリピナたちが結成しているSCCFCチームの踊りと笑顔から発せられる賛美の歌声に、最優秀賞と司教杯が送られた。他3チームには元氣・歌声・チーム賞をそれぞれ授与し、アンサンブル・ユビラーテによるアンコールのハーモニーへの鳴り止まぬ拍手に包まれた後、東日本大震災犠牲者を追悼する「いつくしみふかき」を参加者全員で唱歌し幕を閉じた。

医療法人社団聖心会 阪本病院
整形外科・脳神経外科・泌尿器科 皮膚科・外科・消化器外科 肛門科・乳癌科・形成外科 リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒763-2802 香川県東かがわ市川原103-1 0879-25-1121(代) http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

暁の星学園
鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園 阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園